

イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【NY原油 概況】

●31日のWTI原油は、前日比0.41ドル高の60.98ドルとなった。
米政権がベネズエラの軍事施設への攻撃を決定し、近く空爆に踏み切る可能性があるとの報道。米国防総省は24日、空母「ジェラルド・フォード」を中南米に派遣すると明らかにした。

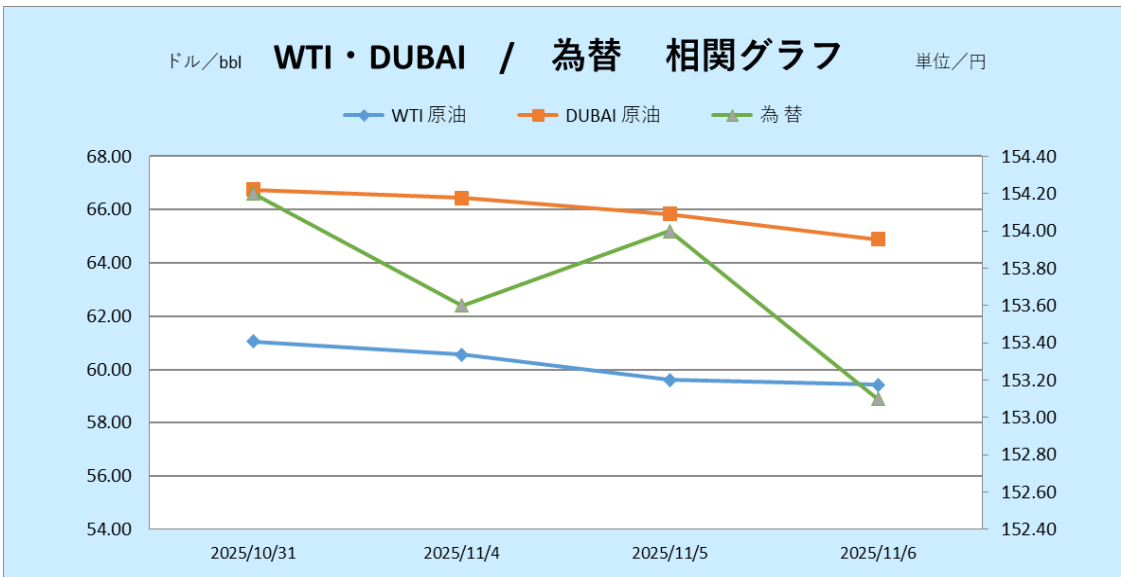
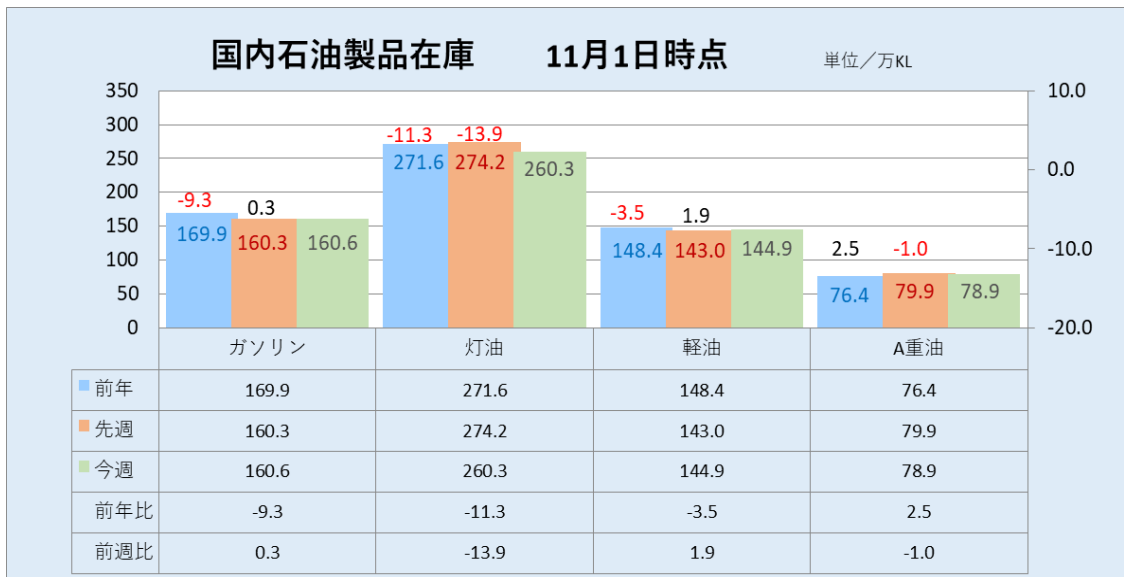
●3日のWTI原油は、前日比0.07ドル高の61.05ドルとなった。
石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」の有志8カ国は2日、オンラインで開催した会合で、12月の原油生産量を前月から日量13万7000バレル拡大することを決定した。

●4日のWTI原油は、前日比0.49ドル安の60.56ドルとなった。
米連邦公開市場委員会（FOMC）をきっかけに、次回12月会合での追加利下げ観測が幾分後退。米銀大手の経営トップらが最高値圏で推移する米株式相場について、調整局面を迎える可能性があるとの指摘したことも投資家心理を冷やした。

●5日のWTI原油は、前日比0.96ドル安の59.6ドルとなった。
米エネルギー情報局（EIA）が午前公表した週間石油在庫統計（10月31日までの1週間）によると、原油在庫は前週比520万バレル増と、増加幅は市場予想（同60万バレル増＝ロイター通信調査）を大きく上回った。

●6日のWTI原油は、前日比0.17ドル安の59.43ドルとなった。
サウジアラビアが12月のアジア向け原油価格を大きく引き下げたと報道。アジア地域のエネルギー需要見通しに懸念が広がり、原油が売られた。

11月7日 12:00現在 WTI原油 59.80ドル 為替 1ドル 154.24円



【次回価格変動予想】

ガソリン	↓	-6.0 ～ -5.5
灯油	→	-1.0 ～ -0.5
軽油	↓	-6.0 ～ -5.5
A重油	→	-1.0 ～ -0.5
LSA	→	-1.0 ～ -0.5

※原油コスト「-1円～-0.5円」
※補助金（ガソリン・軽油）「15.0円」前週比+5円
※現時点での予測です。

【市況総括】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+0.5円」、補助金は、「±0円」、都合「全油種 +0.5円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの4日時点の小売価格平均は173.6円となっている。

《来週》次回の元売り改定は、原油コストは「-1円～-0.5円」、補助金はガソリン/軽油「+5.0円」、灯油/重油「±0円」で、都合ガソリン/軽油「-6円～-5.5円」、灯油/重油「-1円～-0.5円」の改定予測となっている。

【次世代エネ コラム】＜ レゾナック、アンモニアを100%廃棄物由来に 地産地消で資源循環 ＞

レゾナック・ホールディングスは、アンモニア製造の低炭素化に向け川崎市の拠点を設備を強化し、2030年4月以降、全量を廃棄プラスチックなど廃棄物由来に切り替える計画を発表した。

同拠点は廃プラを高温でガス化し水素と二酸化炭素（CO2）を生成するケミカルリサイクル設備を有しており、生成した水素をアンモニア原料に、CO2をドライアイスなどに活用している。この廃プラ由来のアンモニアは、従来の液化天然ガス（LNG）由来に比べCO2排出量を8割削減できるという。

今回の設備増強では、廃棄物由来ガスから不純物を取り除く精製工程の配管を太くするなどし、廃プラや廃棄衣料からのアンモニア製造量を年約2万トン増やす。これにより、従来はLNG由来と半々だった製造プロセスを全量廃棄物由来に移行する。投資額は非公表だが、精製工程のみの増強となるため金額は抑えられる見込みだ。

製造されたアンモニアは日本触媒に供給するほか、自社でも合成繊維原料のアクリロニトリル生産に使用し、国内廃棄物を利用した「地産地消」の資源循環モデルを構築する。

この事業は、国の水素社会推進法に基づく低炭素な水素・アンモニア導入支援策「値差支援」の第1弾として認定され、原燃料の価格差について15年間の補助を受ける。支援終了後も10年間の供給義務があるため、レゾナックはエネルギー利用効率化などコスト削減や高付加価値品としての販売を進める方針だ。